

羽衣白糸の滝

水は清らかさや自然、生命そのものの象徴であり、山梨県の山々は豊かな水源地です。その中でも「羽衣白糸の滝」は、身延山地を源流とする魅力的な自然の名所です。

滝の名前の由来は、水が岩壁から垂直に落ちていく様子が白い絹糸のように見えることから名付けられました。

七面山へと続くハイキングコースの入り口付近には羽衣白糸の滝があり、その前には徳川幕府の創始者である徳川家康（1543～1616）の妾であったお万の方の像があります。

古来、神道や仏教の聖地とされる山には、女性が登ることが禁じられていました。実際、女性が富士山に登ることすら許されなかったのは 1912 年のことでした。しかし、お万の方のおかげで、七面山は何百年も前から女性にも登れるようになりました。1616 年の徳川家康の死後、お万の方は七面山に登り、死後の世界への無事を祈願する決意を固めました。

その純粋さを証明するために羽衣白糸の滝の下で 3 日間瞑想したと言われています。また、7 日間滝の下に座っていたという説もあります。その後、彼女は巡礼を終え、七面山の頂上で家康の霊を祈りました。巡礼後、七面山は女性の登頂が解禁されました。

お万の方は、その清らかさを証明するために滝の下で瞑想したことから、羽衣白糸の滝に隣接して像が建っているのは、まさにこの像にふさわしいことです。像の近くには、滝のふもとへと続く階段があります。滝の水は、川を下る前に小さな浅瀬に迂回されています。滝の下では、数百年前にお万の方が行ったように、滝の下で瞑想をしたり、泳いだりすることができます。滝の下での瞑想は、現在でも行われています。

夏でも水が冷たいので、滝の下に立つのは心身ともに鍛えられ、悟りの境地に達するのに役立つと考えられています。